

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103805
法人名	医療法人 福井整形外科麻酔科
事業所名	グループホームふくい
所在地	松山市高井町795-1
自己評価作成日	平成24年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

母体である、医療法人福井整形外科麻酔科と日常的に連携を図っており、健康面では些細なことでもすぐに相談し、早めの対応が取れるようになっている。出来ていることが継続されるようにリハビリにも積極的に取り組んでいる。また、日常生活の中で、利用者様と職員が共に生きていく生活の場となるように日々コミュニケーションを取るようになっている。毎日笑顔を決やらず、心穏やかに楽しく生活出来るように一人一人ではなく、みんな一つにまとまって介護に取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年2月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●「以前よく出かけていた喫茶店のコーヒーを飲みに行きたい」と希望される利用者があり、職員はご本人と一緒に出かけておられる。「喫茶店のママさん」とは顔馴染みで、事業所にも時々面会に来てくださる。近々、ランチにも出かける予定となっている。生まれ故郷に出かけて、駅のベンチに腰掛けたり、町の資料館等にも行き、懐かしみました。お正月には、ご自宅に戻り、親戚の方達と過ごされ、事業所に戻った際には、孫やひ孫の成長の様子やお年玉をあげたこと等を職員に話してくださった方もいる。併設デザイナーズに身内の方が通って来る際には、行き来してふれ合えるように支援されている。

●近所を散歩されたり、スーパーへ食材の買出しに出かけておられ、ご自分が使う日用品や洋服の買い物をされることもある。利用者の希望で、外食を月1~2回されており、回転寿司へ行かれることもよくある。又、近所のコンビニにおやつを買いに行かれることもある。花見の際には、ご家族もお誘いして利用者と一緒に楽しんでいる。「椿さん」にお参りに出かけた方は、留守番していた利用者の方達にお土産を買って帰られた。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームふくい

(ユニット名) さくら

記入者(管理者)

氏名 栗林 愛

評価完了日 平成24年 1月 23日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員全員で考え、覚えやすい文章で決めた。ミーティングでは、毎回確認し、実践できるよう心掛けている。	
			(外部評価) 昨年、全職員で「理念について」考え、話し合う機会を作り、理念を「心に寄り添える生活ライフ」と新たに作成し、理念の実践に向けて具体的に項目を「安全で楽しい生活」「笑顔で思いやりの気持ちをもつ」「皆でともに生きよう」「社会とのつながりを大切にしよう」と、作成された。毎月のミーティング時には、理念を復唱して、日々のケアを振り返るようにされている。管理者は、職員が理念を共有して取り組むことで、利用者も職員も笑顔が増えてきていると感じておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 町内の行事には、出来る限り参加したり、ホームでのバザーなどにも来て頂き地域の一員として交流を持つよう努めている。	
			(外部評価) 町内会長は、時々事業所に来られて、地域の情報を教えてくださる。夏祭り時には地域の方達と一緒に盆踊りを踊ったり、秋祭りには、神輿を見に行く等、職員が利用者や地域の中へ出かけることで、地域の方達がよく声をかけてくださるようになった。散歩途中、近所の方に出会うと「何処いくの?」と声をかけてくださる。事業所駐車場の賃料の支払い時も、利用者と一緒にいくようにされている。事業所主催のバザーの際には、案内チラシを近所に配り、200名くらいの参加を得て、盛大に行われた。地域の方から提供してもらった野菜や利用者が牛乳パックで作ったペン立ても販売された。年末の餅つき時には、近所の方にもおすそ分けしてお付き合いをされている。近所の鮮魚店等にも利用者や買い物に出かけておられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議の中で事業所の内容や利用者の事を伝えているが、まだまだ理解を深め貢献には至っていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 地域の行事やホームでの行事を伝え、少しずつつながりが持てるようになってきている。避難訓練への参加や実際に抱えている問題を話し合える機会が持てた。	今後さらに、会議の日時や内容、開催方法等も検討され、地域の方やご家族の参加しやすい会議を工夫されてほしい。いろいろな立場の方に事業所のことを知ってもらったり、認知症を理解してもらえよう、会議を活用して取り組みをすすめていかれてほしい。
			(外部評価) 会議では、事業所の報告を行ったり、行事について話し合っておられる。又、消防訓練と併せて行い、メンバーと意見交換を行うこともある。利用者は、「お客さんが来る」ことをたいへん喜ばれるようで、会議時、みなの前で行事の感想等を話してくださっている。ご家族には全員に会議の案内をされているが、高齢の方も多く、参加いただくまでには至っていないようである。議事録の一部を事業所便りに載せて、ご家族に知らせておられる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 利用者の状況など日頃から連絡を密に取り、出来る限り連携に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議時、事業所からの看取り支援の事例報告に、「職員の勉強はどのようにしているか」という質問をいただいたり、栄養摂取の支援について感想をいただいた。インフルエンザの予防や対応についてパンフレットを持参してください、アドバイスをいただいた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 正しく理解出来ているかは不安が残るが、拘束をしないケアには取り組んでいる。	
			(外部評価) 内部研修の年間計画に沿って、年1回、身体拘束について勉強する機会を作っておられる。ベッドから立ち上がる際に転倒する心配がある利用者には、ご家族と相談してベッドの足もとにセンサーマットを敷き、職員が駆け付け見守るようにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフが個々に虐待や高齢者の身体について理解し、良いケアを身につける事が防止につながるのではないかと思います。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員全員での学ぶ機会は持っていないので、学ぶ機会を持つよう努めたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書に沿ってゆっくり説明し、具体的に例を挙げながら行えていると思う。途中で疑問点を尋ねるようにしたり、質問に答えながら納得した上で契約を締結している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者からの要望は日々のケアの中で聞く事が出来ている。家族などの意見は、電話や手紙、来荘時などで少しずつ聞き出す努力はしている。しかし、全員ではないのでもっと聞き出す努力は必要だと思う。 (外部評価) 管理者は、ご家族の来訪時には、ケアへの希望をお聞きしたり「困ることはないですか」と声をかけておられる。利用者個々の担当職員が毎月、利用者の生活の様子等を手紙にして、行事参加時の写真も添え報告されている。毎回、お礼の手紙をくださるご家族もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 意見や提案を聞く機会は、ミーティング等で設けられている と思う。 しかし、個々の意見自体少なく、聞けるよう努めているが、機 会もまだまだ少ないのが現状である。	
			(外部評価) 月一回のミーティング時には、外部研修の報告をされたり、 ケアの統一を図っておられる。日々の業務の中でも気が付 いた時には、話し合いの場を持つようにされている。職員か らのケア等の提案やアイディアは、「まずやってみる」ようにさ れている。職員間であいさつを交わすことや、勤務の休み希 望を採り入れ、働きやすい職場環境作りに取り組んでおられ る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、 勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やり がいなど、各自が向上心を持って働けるよう職 場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々の努力や実績、勤務状況など把握しているが、現実問 題として、給与水準や環境改善など難しい状況も多い。 休みや、労働時間は、出来る限り融通しており向上心を持っ て働けるよう努めている。	
			(外部評価) ケアの現状や力量はまだまだ把握しきれていないが、外部 の研修にも年間を通して全てのスタッフが参加出来るよう計 画している。 また、ミーティングや勉強会など実施し、ケアの向上に努め ている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機 会の確保や、働きながらトレーニングしていくこ とを進めている	(自己評価) 相互研修の参加やバザー等、地域のグループホームの方と 交流し、機会は設けている。また、同建物内の他部署との交 流もある。 ネットワーク作りという面においては、まだまだ機会を設けて 向上させていく必要がある。	
			(外部評価) ケアの現状や力量はまだまだ把握しきれていないが、外部 の研修にも年間を通して全てのスタッフが参加出来るよう計 画している。 また、ミーティングや勉強会など実施し、ケアの向上に努め ている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する 機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互 訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上さ せていく取組みをしている	(自己評価) 相互研修の参加やバザー等、地域のグループホームの方と 交流し、機会は設けている。また、同建物内の他部署との交 流もある。 ネットワーク作りという面においては、まだまだ機会を設けて 向上させていく必要がある。	
			(外部評価) ケアの現状や力量はまだまだ把握しきれていないが、外部 の研修にも年間を通して全てのスタッフが参加出来るよう計 画している。 また、ミーティングや勉強会など実施し、ケアの向上に努め ている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っ ていること、不安なこと、要望等に耳を傾けなが ら、本人の安心を確保するための関係づくりに 努めている	(自己評価) 出来る限り、利用開始前に情報収集したり、ホームへ見学に きてもらったりして、安心できる環境作りや関係作りが早く出 来るように心掛けている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前や契約時にゆっくりと話す時間を設け、今後の生活の意向など出来るだけ不安が少ないように心掛けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) すぐに入居できる現状ではないので申し込みや利用の相談時に他サービスの利用など今出来る事の支援を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 基本理念にも掲げているように、心よりそえる生活を日々実践できるよう関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時に暮らしてこられた背景など小さな情報等も聞かせて頂き、職員全員で共有できるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会に来て下さった人からは、情報を得て共有に努めているが、こちらから馴染みの方や場所へ関係が途切れないような支援はなかなか出来ていない。 (外部評価) 「以前よく出かけていた喫茶店のコーヒーを飲みに行きたい」と希望される利用者があり、職員はご本人と一緒に出かけられる。「喫茶店のママさん」とは顔馴染みで、事業所にも時々面会に来てくださる。近々、ランチにも出かける予定となっている。生まれ故郷に出かけて、駅のベンチに腰掛けたり、町の資料館等にも行き、懐かしまれた。お正月には、ご自宅に戻り、親戚の方達と過ごされ、事業所に戻った際には、孫やひ孫の成長の様子やお年玉をあげたこと等を職員に話して下さった方もいる。併設デイサービスに身内の方が通って来る際には、行き来してふれ合えるように支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 年数がたってくると、それぞれの思いと違う事もあり、関わる事が難しくなったりするので、職員が間に入りフォローしながら支え合えるよう支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了しても、季節の挨拶の交換をしたり、相談に応じられるような関係が保たれるように心掛けており、現在もお便りを下さるご家族もおられる。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) その人その人にあった暮らし方が出来るよう希望を言って下さるような声掛けには努めている。しかし、本当に本人の希望に添っているかはまだ出来ていないと思う。 (外部評価) 「出来ることは何でもしたい」「しっかり歩きたい」等、現在、意思を示す利用者が多く、職員は利用者の希望や意向をよく聞くようにされている。意思表示が難しい方には、眠そうな表情、嬉しそうな表情、又、職員からの声かけへの反応を見ながら、意向の把握に努めておられる。日々の生活記録は、センター方式の「24時間生活変化シート」を用いておられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 生活歴や環境など申し送り等で情報共有したり、面会にいられて聞いた事など職員全員把握できるよう心掛けている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人個人の過ごし方のペースは、出来るだけ崩さないよう出来ており、現状の把握が出来るよう努めている。しかし、職員の力量不足により、有する力を活かす支援は出来ていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	
			<p>介護計画を見直すカンファレンスでは意見は出ているが、日常の介護支援にはあまり活かされていない。また、家族や関係者と電話や手紙で話は出来ているが、チームで集まる事は難しい。</p>	
			(外部評価)	
			<p>利用者ご本人と話し合う機会を持ち、希望や意向を介護計画に採り入れるようにされている。ご家族には、実際にプラン内の「家族の意見欄」に直接、ケアや暮らしへの意向を書いていただくようにされている。担当職員は、計画の中から1項目をピックアップして、毎日モニタリングを行っておられ、計画は、3ヶ月毎に全職員で話し合い、見直しを行っておられる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>気づきや工夫を記録し、申し送りは出来ているが、情報共有し実践する事はあまり出来ていない。</p>	
			(外部評価)	
			<p>その都度ニーズにこたえられるように、いろいろな可能性を含めて話し合いが出来るよう心掛けている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>その都度ニーズにこたえられるように、いろいろな可能性を含めて話し合いが出来るよう心掛けている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>地域資源の活用には至っていない。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>地域資源の活用には至っていない。</p>	
			(外部評価)	
			<p>地域資源の活用には至っていない。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 本人や家族の希望を大切に、かかりつけ医と連携をとりながら適切な医療が受けられるよう支援出来ている。</p> <p>(外部評価) 以前からのかかりつけ医を受診される際は、ご家族や職員が支援されている。母体病院の医師が月に2回往診に来られ、看護師の訪問は週1回あり、利用者個々の健康管理をされている。協力歯科医の往診が月1回あり、4～5名の利用者が診てもらっている。ほとんどの利用者がリハビリのため週1～2回、母体病院に通院されており、緊急時にも対応してくれるようになっている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 週1回の訪問看護時には、気付いた事、相談したい事は伝えられていると思う。また、通院時にも伝え適切な受診や看護を受けられるよう出来ている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 母体が病院と言う事もあり、往診や訪看時に利用者の状態を報告し、指示を仰いでいる。また、入院した場合も、出来るだけ様子観察に行き、経過観察や情報交換に努めている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 重度化した場合や終末期のあり方については、出来るだけ早く家族や医師と話し合い、方針を共有できるよう努めている。しかし、チームケアとしては、まだまだ支援が不十分である。</p> <p>(外部評価) 事業所は「日常の健康管理と重度化した場合における対応及び看取りに係る指針」を作成されて、ご家族と利用者に説明されている。ほとんどの利用者・ご家族が「最期まで事業所で見てほしい」と希望されている。昨年、看取り支援された事例があり、主治医である母体病院の医師と内科系の協力医が往診してくださり、看護師も訪問してくれて、ご家族とも連絡を頻繁に取りながら、最期まで支援された。他の利用者もご本人に「がんばってね」「大丈夫？」等、声をかけられた。ご家族も頻繁に様子を見に来られ、いつでも連絡が付くようにしてくださっていた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ミーティングや勉強会などで定期的に訓練したりしているが、実践力はまだまだなので消防職員さん等も交えていろいろ勉強していきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練や、勉強会など地域の方にも参加して頂き協力体制を築けるよう努めている。 (外部評価) 3月・10月に、夜間・昼間の火災を想定して防災・避難訓練を実施されている。通報訓練や避難誘導・災害に備えての準備等の話し合いもなされた。又、誘導する人数や職員の役割分担の必要性、食料の備蓄のこと、災害時持ち出し品や保管場所等についても職員から質問して、消防署の方にアドバイスをいただいた。職員と利用者で消火器の使い方も体験された。事業所では災害用リュックを用意して頭巾や軍手、ロープ、懐中電灯等を準備しているところである。地域の消防団からは「何かあったら言ってください」と言ってもらっている。	訓練の際には、ご近所へ声かけされているが、現在は、参加にはつながっていないようだ。管理者は「ご近所の方に訓練にも参加していただきたいし、訓練だけでなく普段から事業所へ来ていただき、事業所の間取りや利用者の様子を見ていただきたい」と考えておられる。運営推進会議等も活かして、より具体的な地域との協力体制作りをすすめていかれてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ゆっくり丁寧な声掛けを心掛けている。しかし、言葉使いなどはまだまだ不十分な所があるので勉強会やミーティング等で再検討するようしていきたい。 (外部評価) 利用者のプライバシーについて再確認するために「身体拘束・高齢者虐待・プライバシーについて再確認」のためのチェック項目を作成された。「ドアをノックしてますか」や「おむつ交換、更衣のときドアを閉めていますか」等、すべての職員が自分自身のケアをチェックされた。今後、職員ミーティング時に、調査結果について話し合い、言葉かけや対応について勉強する予定となっている。事業所では「職員が利用者となつれ合いになっているのではないか」と感じておられるようだ。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者がしたい事を出来る限り優先し、選択肢ができるよう提案等工夫している。しかし、職員の判断で行う事もあるので気を付けていきたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来る限り、利用者のペースで生活して頂いていると思う。しかし、もっと希望があると思うので引き出せるよう努めたい。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 一緒に買い物に行ったり、洋服選びをしている。スタッフが決めている時もあるのでもっと選択出来るようにしたい。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) どんなものが食べたいか、好きか聞き支援出来ている。また、月に二度外食にも行かれ楽しまれている。 (外部評価) 食事担当の職員が、利用者の希望を聞きながら献立を決め、利用者と一緒に買い物に行ったり、冷蔵庫のものを使って食事作りをされている。調査訪問時には、昼食中の会話で、夕食にクラムチャウダーを作る予定となっていたが、利用者からの希望で、うどんに変更となった。味付けは、健康のため薄味にされている。カロリー制限がある利用者には、空腹の訴えがあるような時には、おやつで補うようにされている。昼食時、利用者は「おでんのジャガイモがほくほくしている」「みそは辛いから少しでいいよ」等、食事の感想や調味料の好み等を言いながら食事をされていた。職員も利用者と同じものを食べながらサポートされている。食後は、職員が洗った食器を利用者が拭いてくださっていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の体調や病歴に合わせて対応出来ている。また、体調不良の時は、特に水分摂取に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 朝、夕は確実に取り組んでいるが、毎食後ではない。月に一度は往診で診てもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	日中、夜間共にその人にあったオムツやパットを使うよう気を付けているが、排泄パターンの把握や、自立にむけた支援までは出来ていないと思う。	
			(外部評価)		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	水分摂取、運動そして服薬など個々の体調に合わせて対応出来ている。最近では、乳酸菌など食事面にも特に注意している。	
			(外部評価)		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	体調や本人の希望にて入浴出来ている。時間帯に関しては、スタッフのタイミングになっている事が多い。	
			(外部評価)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	その時々体調に合わせて、休息して頂いたり出来ている。また、室温調節も気を付け、気持ちよく眠って頂けるよう支援している。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 何度もスタッフ間で日付や名前を確認し、安全に服薬出来ている。 薬の内容や用量などは理解できていないが、目的や用法などDrに聞いたり、お薬ファイル等で確認するように努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) スタッフ間で、利用者の出来る事、嗜好品などの情報共有は出来ている。 また、行事等計画し、楽しみごとを取り入れ、気分転換出来るよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の希望にそっては難しいが、前もって希望を聞き計画し、外出出来ている。家族様や友人とも連絡を取り、自由にされている。 (外部評価) 近所を散歩されたり、スーパーへ食材の買出しに出かけておられ、ご自分が使う日用品や洋服の買い物をされることもある。利用者の希望で、外食を月1~2回されており、回転寿司へ行かれることもよくある。又、近所のコンビニにおやつを買いに行かれることもある。花見の際には、ご家族もお誘いして利用者と一緒に楽しまれている。「椿さん」にお参りに出かけた方は、留守番していた利用者の方達に、お土産を買って帰られた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者からの希望で買い物に行ったり、外食に行ったりしてお金を所持し、使われている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者自ら家族又は知人に手紙を書いたり、電話をかけたたりされ、要望のある限り支援出来ている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) トイレには、場所が分かるよう張り紙をしたり、リビングや玄関には、飾り付けや花を生けるなどして季節感をだすよう工夫出来ている。	
			(外部評価) 居間の壁や棚には、利用者の手芸作品や観葉植物が飾られている。調査訪問時には、利用者は新聞を読んだり、テレビを観て過ごされていた。利用者がホワイトボードに、その日の食事のメニューを書いてくださり、職員は、利用者との会話のきっかけにされている。夕食の内容が変更になり、利用者は、メニューを書き直しておられた。階段の手すりを使って歩行練習をされる方もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 個々で過ごす場所は、主に利用者各居室となるが、リビングにおいては、それぞれの時間を過ごせるように職員が関わりながら工夫出来ている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者それぞれの空間作りとして、ご家族の写真やなじみの物等を飾り、居心地良く生活出来るよう工夫出来ている。	
			(外部評価) 居室入り口のドアの一部が掲示物を貼れるようなコルクボードになっていて、手芸の得意な利用者がそれぞれの利用者にプレゼントされた飾りものを付けておられた。ご自宅を大切に思っている利用者は、「わたしの家」と示して、大きく伸ばしたご実家の写真を飾っておられる。仏壇を持ち込まれている方もいる。お若い頃にもらった卓球とボーリングの表彰状を見せてくださった利用者もあつた。ご自宅から持って来られたギターを弾いて聞かせてくださった方もいた。ベッド柵に鈴を付け、必要時に職員を呼ぶ利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 狭いリビングでは、歩行や移動の妨げにならないよう必要とき以外は放置しないよう心掛けている。また、出来ることなど、声かけしスタッフが準備して作業して頂けるよう努めている。	